

障がい者スポーツの意義と障がい者スポーツセンターの必要性

《障がい者スポーツの意義》～スポーツ実践者・センター利用者の声など～

1 スポーツとの出会い

- ・ 障がいがあるため、スポーツとは無縁だと思っていたが、障がい者でもできるスポーツがあることを知り、スポーツを始めることで自信を持つことができた。
- ・ 身体を動かし、汗をかくことの喜びを知り、健康維持や体力の保持・増進につながった。
- ・ 社会との接点を求めて、障がい者スポーツセンターに行き、スポーツを始めた。

2 仲間づくり、レクリエーションなどの日常生活の充実

- ・ スポーツをすることで、外出やコミュニケーションの機会が増加し、自立した生活につながる。
- ・ スポーツを通じて仲間と出会うことで、ともにスキル向上に取り組むことができ、楽しみや喜びを分かち合いながら、充実した日常生活を送ることができる。
- ・ スポーツをすることで、たくさんの人と出会い、同じ境遇の人、違う境遇の人の話が聞けて、「自分だけ」という意識がなくなり、気分的に楽になった。
- ・ 現在では、障がいのある人に適合させたルールの下で、障がいの有無に関わらず一緒にスポーツを楽しむ場面も見られる。
- ・ 一緒にスポーツをすることで、障がいのある人に対する抵抗感がなくなり、楽しく過ごせた。

3 勇気と感動、希望を与える

- ・ パラリンピックや各種競技大会において、ハツラツとした表情で激しくプレイする姿が、見ている人々に感動を与える。何よりも格好良い。
- ・ 障がいがあってもスポーツで活躍する姿を見て、意欲が湧き、スポーツを始めることができた。
- ・ スポーツ技術や記録の向上を目指し取り組んだ結果、各種競技大会に参加し、優秀な成績を修め称賛されるなど、自己可能性の追求や豊かな生活の実現につながる。

4 社会参加と自立の促進

- ・ 障がいのある人が、日常的に障がい者スポーツに取り組むことで、健康・体力の維持増進のみならず、社会参加と自立を促進することができる。

5 障がいへの理解促進、共生社会の実現

- ・ 障がい者スポーツは、障がいがあってもスポーツ活動ができるよう、障がいに応じて競技規則や実施方法を変更したり、用具等を用いて障がいを補ったりする工夫・適合・開発がされたもので、ルール面や安全面での配慮がされているので、世代・障がいの有無を問わず誰もが参加でき、楽しむことができる。
- ・ 障がいの有無によって分け隔てられることなく、共に暮らす社会の実現には、こうした工夫や配慮は欠かせない要素であり、障がい者スポーツ振興を通じて、障がいのある人とない人との交流を促進することで、障がいへの理解が深まり、共生社会の実現につながる。

《障がい者スポーツセンターの必要性》

- ・ これまで、市内の障がい者スポーツセンターでは、障がいのある人の健康づくりから競技スポーツまで、障がいのある誰もがスポーツに親しめる環境の提供をめざし、「いつ一人で来館しても指導者や仲間がいて、安心していろいろなスポーツを楽しむことができる」という基本方針のもと、個人利用者の指導をはじめ、様々なスポーツ教室を実施し、障がいの状況等に合わせた指導や用具の工夫を行うほか、スポーツ大会や文化交流事業など、障がい者スポーツの発展に取り組んできた。
- ・ 障がい者スポーツセンターの延べ利用者数は年々増加し、24 区のスポーツセンターやプールにおいても、障がいのある人が一定数利用しているものの、全国調査では障がい者のスポーツ実施率は、依然として低い。(大阪市は今後調査)
- ・ 利用者からは、「事故により障がいを負った時、自宅から出ていくことができなかったが、利用者から誘われて障がい者スポーツセンターに行き、スポーツをすることで、自分を受け入れることができた。」「障がいの特性から大きな声を出すため、一般の施設ではジロジロ見られるし、受け入れてもらえない。」といった声も聞く。
- ・ 誰もがどこでも自由にスポーツを楽しむことはめざす姿ではあるが、まずは、障がい者スポーツを普及させるためには、障がい者スポーツセンターがこれまで蓄積してきたノウハウや人材等の貴重な資源を活かして、障がい者スポーツセンターを障がい者スポーツの普及拠点として、更なる裾野の拡大や地域への広がりに向け、取り組んでいくことが必要である。